

第 3 回 MELON 環境市民講座「くるくる紙のリサイクル」レポート

紙ごみリサイクルをすすめよう！

仙台市では今年の 4 月から、事業ゴミについて焼却工場への再生可能な紙類の持ち込みを禁止しました。一般廃棄物の排出量のうち事業系は約 4 割で、このうち約 50%は再生可能な紙類であるため、持ち込みを禁止することによりリサイクルを推進しています。

これを受けて、7月7日(木) せんだいメディアテーク 7F スタジオシアターにてオフィスでの紙の分別をテーマとした講座を開催しました。企業&環境プロジェクトが仙台市、ごみ減量プロジェクトと共催で行ったこの講座には、企業の方など 80 名余りの方の参加がありました。

当局、回収業者、リサイクルに取り組んでいる企業の方からそれぞれお話をいただき、参加者からは「各々の立場が持っている考え方を一度に聞ける

機会となり、実際の紙の流れのイメージができた」「理念や意義などだけでなく、具体的な話題が多くおもしろかった。今後の活動に生かしたい」と好評をいただきました。

＝講演の内容＝

- 「みんなですすめよう！
事業ごみの減量・リサイクル」
仙台市環境局廃棄物事業部
リサイクル推進課課長 広島紀以子氏
- 「回収業者の役割」
株式会社サイコー営業部営業課課長 山本英人氏
- 「オフィスにおけるゼロエミッションに向けて」
リコー東北株式会社 CS・環境推進グループ
リーダー 土井正治氏、伊田直子氏、佐藤琴恵氏



会場からは
リコー東北株式会社の
分類品目の多さに
驚きの声があつた！



MELON20周年をめざせ！

第 7 回目の執筆者

山中昭岳さん
(熊野川小学校教諭)

50人リレートーク

「足元から行動し、地球規模で考えられる子どもを育てる！！」

和歌山県熊野川町は、アユが泳ぎ、天然記念物(?) 川ガキが現れる清流熊野川が流れ、緑豊かな山々に囲まれた自然豊かな地域です。また、世界遺産「熊野古道」も通っており、地域全体が子どもたちにとって格好の学びの場となっています。そのもっとも中心となっているのが、「たんぼ水族館」です。休耕田を池とし、水生生物の楽園となるよう子どもたちで保全活動を進めています。どろんこになり、五感をフルに使っての活動です。



このように自然があつて当たり前の子もたち。だんだん自然が大切だという意識が薄れていきました。そのような中、偶然、インターネットを通してバケツで稲を育てている都会の学校に出会いました。

「バケツで稲が育つなんて・・・」

自分たちの地域とは正反対の大都会の学校との交流が始まりました。自分たちとは全く違う環境。驚きの連続。

「ザリガニは、100円くらいで売っています。」

「え～、ぼくらにとったら害虫やで。」

「ザリガニ、ほしい？」

交流は進み、修学旅行で実際に会えることに！！

自分たちの自然環境について、伝える相手がいることにより再認識することになりました。お互いの地域の良さを認識し、自分たちの地域の良さを再認識したのです。

今、子どもたちは先輩たちの意志を受け継ぎ、「生き物のために 自分たちのために 地球のために」というキャッチフレーズで、たんぼ水族館での活動を進めています。

..... 次号予告

次は、三枝孝之さん。「NPO 教育学舎」～自然食と農地を守る会～代表。荒廃した休耕地を活用して食や燃料、自然、教育など身近な問題の解決を目指している。

